

ど の し た 淵

【新年あけましておめでとうございます】



2022年は十干が「壬(みずのえ)」、十二支が「寅(みずのえとら)」です。寅は動物の「虎」に対応しているので、勇敢で争いごとも強く、自信に満ち溢れる印象がされます。「寅」は動くの意味で、春が来て草木が生ずる状態を表しています。

また、2022年は五黄の寅年とも言われます。五黄の寅年は36年に1回訪れ、前回は1986年です。黄の寅年生まれの人は一般的に気が強いとされ、この年に女子が生まれることを忌まわしむ俗習があります。

いつたい今年1年、どんな年になるのでしょうか。或いは皆さんはどうな年にしたいですか。コロナもいつ終息するか分からぬ中、経済の復興も望まれることではあります。何より毎日を健康で明るく過ごしたいですね。

2022年は十干が「壬(みずのえ)」、十二支が「寅(みずのえとら)」です。寅は動物の「虎」に対応しているので、勇敢で争いごとも強く、自信に満ち溢れる印象がされます。「寅」は動くの意味で、春が来て草木が生ずる状態を表しています。

また、2022年は五黄の寅年とも言われます。五黄の寅年は36年に1回訪れ、前回は1986年です。黄の寅年生まれの人は一般的に気が強いとされ、この年に女子が生まれることを忌まわしむ俗習があります。

【公民館及び周辺清掃】

今年度の公民会事業推進について
は、世帯代表・当番・住民全員参加の3
パターンにより推進してきました。12
月と3月の公民館及び周辺清掃につい
ては、当番制により実施することにして
おり、今回は4班の皆さんに当番員とし
て、敷地内の草取り、屋内の整理整頓・
掃除・ガラス拭き、ごみステーションの
年末年始を控え、公民館もサッパリなり
ました。4班の皆さんには明け方雪の
ちらつくしき模様の朝にもかかわらず
ご苦労様でした。ありがとうございます。

◆ 「17の目標」

飢餓をゼロに [3] すべての人に健康と福祉
を [4] 質の高い教育をみんなに [5] ジエン
ダー平等を実現しよう [6] 安全な水とトイ
レを世界中に [7] エネルギーをみんなにそ
してクリーンに [8] 働きがいも成長も
産業と技術革新の基盤をつくろう [10] 人
や国の不平等をなくそう [11] 住み続けら
れるまちづくりを [12] つくる責任つかう
責任 [13] 気候変動に具体的な対策を
[14] 海の豊かさを守ろう [15] 陸の豊かさ
を守ろう [16] 平和と公正をすべての人に
パートナーシップで目標を達成しよう

発行責任者

高峯公民会長
三腰善行
090-1089-9432
令和4年1月1日発行



たかんね寺小屋

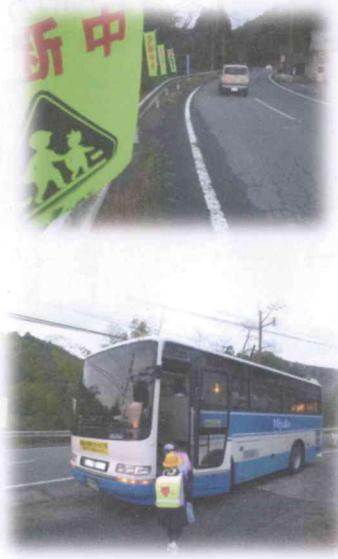
「SDGs」エス・ディー・ジーズ（持続可能な開発目標）とは、サステイナブル・デベロップメント・ゴールズの略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。このサミットでは、2015年から2030年までの長期的な開発の指針として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この文書の中核を成す「持続可能な開発目標」をSDGsと呼んでいます。SDGsは「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」で構成されています。

1 ア・リ・マ・ス・ル
1 14 海の豊かさを守ろう
1 15 陸の豊かさ
1 16 平和と公正をすべての人に
1 17 パートナーシップで目標を達成しよう

【交通安全立哨に思う】

年末年始にかけての交通安全立哨に、交通安全協会白男川支部役員として、12月20日朝に出動しました。霜の強い縛れる朝でしたが、子どもたちは終業式前の学校行のバスに元気よく乗り込んで行きました。統合で学校は遠くなつたけど、こんな寒い朝に歩いて泊野小学校に行くのとしたらどっちがいいのかなーなんて思つてしまいましたが、卒業生は皆通つてきたのですよね。それで強靭な体力?も培われたのかも知れません。やっぱり地元に学校が無いのは寂しい事です。

小学校跡地・校舎の活用については今後みんなで語らないといけません。学校はやはり泊野の中心地であり、区民の拠り所だと思います。



御札の掲示板



出店?状況

11月号で紹介した、泊野インターの所に出していた柿（後半はウンベも出しました）の、募金箱にナ・ナ・なんと**8878円**もの善意が寄せられていました。見ず知らぬ方々のご恩情に心から感謝申し上げます。有難く頂戴し、公民会一般会計歳入（雑入）に納入しました。

編集後記「田の神さあのひとこと」

今年より生涯学習の一環として、紙面において学びの機会を提供するためたかんね寺小屋へ持続可能な地域づくりコーナーを設けました。社会教育において生涯学習の概念が取りざたされて久しくなりますが、その概念は浸透することなく、その理念である「いつでも・どこでも・だれでも」学べる機会って中々行き渡つてないなーというのが正直な感想です。スンクジラにおいてはなおさらです。学びに対し意欲・興味のある人は講座等に割と積極的に継続して参加されていますが、学んだことを地域に還元するサイクルが出来ていかない。学びっぱなし。というのが現状ではないでしょうか。まあそれはそれとして、生涯・学びの継続であることは間違いない事です。そこで、地域で生活する中で時代の趨勢に取り残されることなく、持続可能な地域づくりにつながるであろう事柄について、紙面による学習教材を提供していきたいと思います。

現代は自分の興味あることはパソコン・スマホで検索すればサクッと情報を得ることができます、その情報が正確かどうかを見極める知識を持たなければいけません。そこで、新聞はじめマスメディアでよく見聞きする事柄について、役場の出前講座の内容等で必要な事柄を紙面で紹介できたらと思います。何か知りたいこと、疑問なこと等有りましたら何でもいいのでお知らせください。